

第41回 B-29 vs 屠竜(サニー)の巻



長距離爆撃機ボーイングB29の投入が太平洋戦争の趨勢を決したといつても間違いでないでしょう。B29は(日本中を爆撃したことからか)その知名度とは裏腹に日本では長い間キット化には恵まれていませんでした。何故かハセガワからもタミヤからもキット化されなかったのです。そんな中かろうじて目につくことの出来たのはスカイウェーブの1/700キット(B29vs雷電・月光)だけでした。ところが実はこのキットと同コンセプトの対決モノが他にも存在したのです。

今回取り上げるサニーの1/100キットは海軍の月光と並んで斜め銃が有名な陸軍二式複座戦闘機・屠竜とのセットです、**箱は**屠竜もまた当時はニチモの1/48キット位しか存在が確認されておらず(マイの1/144はかなり後になって再販された)、それ故新司令部偵察機の話を聞ける例の模型店で嬉々として購入したのですが、帰宅して箱を開けたとたん目に飛び込んできたのは謎の緑色のランナー。いくら何でもこれが屠竜でないことは明らかです。そして箱の底には1枚の紙が。実はこの紙、かなり早い段階から入っていたようです。インターネットのオークションでこのキットを時折見かけますが、その殆どが飛燕代替版であり屠竜が正しく付属したものは1~2例です(落札価格は飛燕代替版の4~5倍)。



キットデータ

メーカー	サニー
スケール	1/100
当時価格	600円(税抜)

右は「幻」状態となっている屠竜の組立図です。特徴である20mm斜め銃を伸ばしランナーで追加する旨指示があります。当然正確な取り付け位置は不明です。当時はこれが普通で、むしろ斜め銃へのこだわりが感じられます(もっとも、止むを得ず飛燕のランナーが付属することは仕方無いとして、この図では飛燕を組み立てられないという点は問題でしょう)。B29については各銃座とエルロンが可動します。同梱の飛燕と比較してかなりのボリュームがあり、国力というか基礎工業力の違いを認めざるを得ません。あ、これは屠竜の金型トラブルのことを言っているのではありません、念の為。